中 央 高 等 学 校 校 長 室 だ よ り ＜８＞

つれづれなるままに　第８号

平成30年７月20日（金）発行

校長　深谷　浩一

川名君，ふんばった！

～磯君と高草木君に殊勲打！～

１学期の終業式を１日繰り上げて実施し，20日（金）は全校応援で４回戦に臨みました。相手は，シード校の日立一高を破った土浦一高を撃破して勝ち上がってきた境高校。前号で紹介したとおり，境高校とは一昨年の３回戦で対戦しており，その時は本校が７対５で勝利したものの，その時１年生だった選手がエースとしてチームに残っていることから，本校に対するリベンジ精神は大きいはず。球場は３回戦の時と同じ笠間市民球場です。午前10時，相変わらずの猛暑の中，境高校の先攻で試合が始まりました。スターティングメンバーは，３回戦の時とまったく同じで，ピッチャーには３回戦で粘り強い投球を披露した高橋君（３年）が入りました。

１回表，境高は高橋君の立ち上がりを攻め，いきなり２点を先制しました。その裏の本校の攻撃は松井君のフォアボールなどで出塁はしたものの，攻撃はあえなく５人で終了してしまいました。２回裏は，石田君（３年），平澤君（３年），高草木君（３年）とも凡退で無得点。３回は，２巡目となった小沼君（２年）のセンター前が飛び出しましたが，続く３番の野口君がセカンドフライに倒れ，この回も得点が入りませんでした。

４回は，４番松井君からの打順で大いに期待がもてました。フォアボールで塁に出た松井君を５番磯君がバントで送り，ランナー２塁となったところで，６番石田君がライト前にヒットを放ちました。そこで，ランナーの松井君は３塁ベースを蹴って本塁をねらいましたが，好返球であえなくアウト。続くキャプテンでキャッチャーの平澤君（３年）は，三振。絶好の得点チャンスを失ってしまいました。

５回裏は，サード高草木君（３年），ピッチャー高橋君，打順が１番に戻ってセンターの高野君（３年）とも凡退。５回が終わって２対０。前半は境高ペースで終了しました。

６回表，境高校は高橋君の制球の乱れをついてノーアウトでランナーを二人出したところで，中央は二人目のピッチャー川名君（３年）をマウンドに送りました。昨日より１イニング早い当番でしたが，このピンチに川名君は１点で抑え，次の本校の攻撃に期待したのです。

６回裏，ここで本校にこの試合最大のチャンスが巡ってきました。先頭打者の小沼君がこの試合２本目のライト前ヒットで塁に出ると，ここで３番野口が絶妙なバント。内野安打となり，１，２累。続く４番松井君はフォアボールを選び，ノーアウト満塁となりました。ここで，５番磯君がレフト前に２点タイムリーを放ち，１点差に詰め寄ったのです。

６番石田君はライトフライに倒れましたが，攻撃はまだまだ続きました。７番平澤君がフォアボールを選び，再び満塁に。ここで，高草木君がレフト前にヒット。本日初のタイムリーで２点を追加して逆転に成功したのです。

逆転してからの３イニングは，川名君がボールを先行させる苦しいピッチングではあったものの，要所を押さえた投球で得点を許しませんでした。

これで，ついに本校はベスト８入りを果たしました。そして，次は常総学院。本校は，これまで過去10年間で３回戦以上勝ち上がった３大会のすべてで，最後は常総学院に敗れています。４度目の正直で，今年こそ，そのリベンジを果たしたいものです。（つづく）